

小田原市教育委員会臨時会会議録

- 1 日時 平成26年7月29日(火)午後7時00分～午後9時00分
場所 小田原市役所 601会議室

2 出席した教育委員の氏名

- 1番委員 山田浩子(教育委員長職務代理者)
2番委員 栢沼行雄(教育長)
4番委員 和田重宏(教育委員長)
5番委員 山口潤

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

- 教育部長 関野憲司
教育部副部長 露木幹也
教育総務課長 柏木敏幸
教育指導課長 市川嘉裕
指導・相談担当課長 鈴木一彦
教職員担当課長 田中修

(事務局)

- 教育総務課総務係長 濱野光利
教育総務課主査 小林隆

4 協議事項

- (1) 平成27年度使用小学校用図書の採択に向けての協議について (教育指導課)

5 その他

6 議事等の概要

- (1) 委員長開会宣言
(2) 会議録署名委員の決定…山田委員、栢沼委員に決定
(3) 協議事項(1)平成27年度使用小学校教科用図書の採択に向けての協議について
教育指導課長…それでは、本日の協議事項(1)についてご説明申し上げます。小学校教科用図書の採択につきましては、平成23年度の学習指導要領改訂から4年目を

迎えている中、平成27年度から使用の小学校の教科用図書の採択替えの年となっております。現学習指導要領に基づく二巡目となる今回の検定では、15社、253点が合格しており、その中から小田原市の児童に最も相応しい教科書を、教育委員の皆様が採択権者として採択していただきます。

これから1種目ごとに協議していただき、8月7日の臨時会で最終の採択をしていただきます。本日及び31日の臨時会においては、採択の前段階として、種目ごとに協議をしていただくものです。具体的には、本日は国語、書写、社会、地図、算数、理科の6種目について協議をしていただき、31日には残りの音楽、図工、家庭、保健、生活の5種目について協議をしていただきます。そして、8月7日の臨時会において、小学校教科用図書の採択をしていただきます。

本日及び31日の協議の実際ですが、すでに県教育委員会の作成した「平成27年度使用小学校教科用図書選定に係る調査研究資料」と、小田原市教科用図書採択検討部会の調査員が作成いたしました「平成27年度使用小学校教科用図書調査研究報告」につきましては事前に皆様へお渡ししております。

これらの資料に加え、教育委員の皆様が、独自に調査研究していただいたものをもとに協議していただき、最終的に、小田原の児童にとって、最も相応しい教科書を選んでいただくこととなりますのでよろしくお願いいたします。なお、本日A4両面刷りの資料「平成27年度使用教科用図書小田原市教科用図書採択検討部会の意見」として、過日おこなれた部会の皆様からのご意見をまとめましたので、参考にしてください。よろしくお願いいたします。

和田委員長…それでは、これから教科用図書採択のための協議を始めます。具体的には、それぞれの種目について神奈川県教科用図書調査研究の観点をもとにして、2社ぐらいの候補をあげていきたいと考えております。各委員におかれましては、限られた時間の中で膨大な資料を検討されたことと思います。また、私自身もそうですが、手元にたくさんの資料や検討結果を持っておりますので、種目ごとに整理しながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。本日の流れとしては、教科ごとに私から問いかけをさせて頂いて、順次、進めてまいります。まず最初に、教育長から、種目の柱となる観点の提示からお願いしたいと思っております。教科ごとにこの流れでやっていきたいと思っております。

①種目 国語

和田委員長…では、はじめに国語科の教科書からはじめます。小田原市の調査員の先生方の

作成した調査票を、皆さんは詳しくお読みいただいていますので、今日の国語の協議の際の柱としていくつか観点を絞り込みを教育長にお願いします。

栢沼教育長…国語科の教科書採択における内容選択の観点としては、「1 児童の発達段階に即して適切であるか」「2 伝統的な言語文化の教材例の取り上げ方の適切さ」「3 学年別漢字配当表に配当されている漢字や新出語句の提示の適切さ」の3つが挙げられると思います。

和田委員長…では具体的に「児童の発達段階に即して適切であるか」という観点についてはどうでしょうか。

山田委員…まず、学校図書ですが、発達段階において適切であるかというところですが、各学年の発達段階をよく考えて、題材を選んでいると感じました。まず、1年生は、全く初めてなので、動物たちのインデックスを作って、喜ぶように工夫してありますし、各学年で詩を味わおうというところを取り上げてみてみますと、1、2年生は普通のイラスト入りなのですが、3年生からは詩を味わおうというところが、絵も写真も何もない、真っ白なところに字だけが書いてあるというような取り上げ方で、6年生に限って例外はありましたけれども、その余白のところへ子供たちに自主的に考えさせるという効果があるのではないかと思いました。それから、三省堂のあまんきりこさんの部屋というコーナーを2年生からすべての学年で取り入れていて、その学年に応じた、あまんきりこさんの読書に関するエッセイが学年ごとに解かりやすく、5、6年生なら、5、6年生らしく、書いてあった後に、説明するような読書案内があります。あまんきりこさんの優しい語り口が大変子供の心に寄り添って、読書を啓発しているように思いました。それから、光村図書の発達段階に応じてというところでは、伝統言語文化とかそういうところにも関連しますが、季節の言葉というものを設けていて、春と秋の日本の四季、日本の言葉の美しさというものを日頃、今の子どもたちが使わない、例えば俳句の季語のような、春の季語でしたら、山笑うとか、春陰、花冷えとか春雨とか、学年に応じた使い方をしてるように思いました。それから、光村図書の方も各学年の発達段階に応じた読み物が多く取り上げられていて、わりと各教科書会社に共通する題材が多く取り上げられているのですが、東京書籍は、独自の物語を色々研究開発されているのか、あまり読んだことのないものが各学年に応じて色々素敵な物語が取り上げられていると感じました。

和田委員長…他にいかがでしょうか。

栢沼教育長…多少、同じ意見が混じってきますが、学校図書に関しては、やはりインデックスの方式、このページ構成というものが非常に評価できるし、ひらがな指導に

おいては、ゆるやかにスタートしているといった点、あるいは句読点の書き方、朱書きをしているとか、いずれも発達段階を考慮して、とても解かりやすい教科書だと感じました。また、東京書籍については、特に1年生の特殊音節の学習ということについて、視覚化、あるいは動作化、こういったことを取り入れて、音の仕組み、あるいはこれを体感しながらとらえるように工夫されていて、そういった点と、特に特徴的なのは、特別支援教育の視点を取り入れられている。そういった中で、すべての児童にとって学びやすい工夫がされている、そういった印象を受けました。また、三省堂につきましては、辞書の引用を活用する、そういった手法で、学年に応じて図鑑の見方、あるいは辞典の使い方、これらの説明が非常に解かりやすく記載されておりまして、さすが辞書を作る会社ならではの工夫が随所にみられる、そういったことが評価できるかと思えます。

和田委員長…昨今、英語に非常に関心が寄せられる、教科に取り入れられるとか、そういうことがあって、こういう現状下で、私は日本語こそが大事だ、国語こそが大事だと、これが一番ベースになくってはならないと思っています。その大切さを学ぶ第一歩として、どの教科書がふさわしいかというところを重点的に見てみました。特に小学校1年生の上巻の教科書を中心に見てみました。一番ベースになるわけですから。ですから、声出しと書くというところ、これが各社ともにその辺のところには十分な配慮がされていると思いましたが、もう少し詳しく見ていくと、最初の学校図書は、初めて国語を学ぶのに非常に抵抗感がなく、自然に入ることができるような工夫がなされていた感じがします。文字を書く練習も、非常に丁寧なゆっくりという印象を受けました。三省堂は、言語の習得は、声出し、発音と話しから始まるのですが、それを定着させるのに、しっかり書けることだと、私自身もそう思いますし、そのことが配慮されている編集になっているという感じがします。東京書籍は、学習に手をたたかとか、手を下げるとか、にぎるとか動作を取り入れて、これは子どもたちにはとても解かりやすいという感じを受けました。体得できる工夫、身体を通して学んでいく、そういう印象が残りました。字を書く姿勢についても丁寧に東京書籍の場合には指導するという編集意図が感じられました。声出しというところでは、各学年に通しても一貫性があるという感じを受けました。教育出版の場合は、本を読もうで、たくさん本が紹介されていて、読書好きの子どもには、とても良いかな、発展的な学習という意味では良いかなと思いました。ちょっと気になったのは、光村図書のところで、聞く話す書くを大事に身に着けようという気持ちはすごく伝わってききましたが、初めて習う子どもには、最初の段階でどう

かな、一工夫あったほうが良いかなとこんな感想を私は持ちました。この項については、そんな感じを受けました。

山口委員…児童と発達段階においてという観点から完全に離れてしまうかもしれませんが、先程委員長がおっしゃっていたように、国語が一番大事だと思うし、どの科目においても、日本語で教科書が書いてあるので、その内容を理解するためにも、国語の知識が絶対不可欠になります。ですから、国語が一番基礎になる大事なところだと思うので、1年生から抵抗なく入れるようにというのがとても大事なことだと思います。最初にぱっと目を引いたのは1年生のところで、学校図書でしたか、キャラクターがインデックスのようになっていて、大人がめくろうとするとかえって引っかかりがなくてめくりにくいのですが、子どもたちはすごくとっつきやすいとか、ぱっと入り込みやすいかなという印象を受けました。教科書の本体の部分は、どこの教科書もすばらしく良く出来ていて、ここまで手とり足とり、こういうところを感じ取れるような、こう感じとろうとか、表現がすばらしく、多彩な表現を見つけようとか、そこまで書いてあるのだと思うくらい、素晴らしい教科書ばかりです。個人的には、別冊にある三省堂の学びを広げるというのは、ずっと大人になってからでも見返してみたいような内容なものがそろっていたので、それが良かったと、色々な学年の子たちが喜んでくれるのではないかと思います。

和田委員長…今日は、もう一人委員が欠席なのですが、意見は頂いておりますので、全体のところで事務局の方から伝えてもらうことにします。スタートが国語で、全出版社について、ほとんどの委員の方々がらご意見を頂いたのですが、本来あるべきことだと思いますが、これをやっていたら、いくつもの教科をやるのですから、大変な時間となってしまうと思います。ですから、ここは一押し、というように絞って頂いた方が進め方としてはスムーズかと感じました。みなさん、熱心にご意見を全部おっしゃっていただきましたが、私自身もそのように発言しましたが、どうぞその辺り考慮しながら進めていただきたいと思います。それでは、二つ目の観点で、伝統的な言語文化の教材例の取り上げ方が適切であるかについてはいかがですか。

栢沼教育長…この伝統的な言語文化の教材例という観点ですが、特に取り上げるとするならば、学校図書、あるいは三省堂、あるいは光村図書、いずれも俳句、短歌の持つ独自のリズムとか、あるいは響き、これら感じることを大切に教材を取り上げる観点からすれば、どの教科書も評価できていると思います。

山田委員…伝統的な言語文化のところでは、光村図書のところが百人一首を全文4年生で載せているというのは、試みとしては、子どもたちが小学校の段階から目に触

れるというだけでもすごく良いことかなと感じました。それから、教育出版の俳句のところで、どこの教科書会社でも短歌や俳句を取り上げられているのですが、教育出版は、子どもの句会を取り上げていて、子どもたちに句会はこんな風にしてやりましょうということで、実際にやれるような工夫をしてくださっているのが良いかなと思いました。

和田委員長…栢沼委員からも話がありましたが、この観点についてはほとんどどこの教科書も行き届いているなという印象を受けました。その中で、光村図書の百人一首があつたりしましたが、私は、6年生で狂言を取り上げている。伝統言語の中で、お能と狂言があり、ユネスコの世界文化遺産の中の1号なのです。世界に誇れる文化であるわけですから、お能はちょっと難しいが、狂言は非常に解かりやすく、さらに学校でもよく鑑賞するのです。ですから、狂言をきちんと教材に取り上げている出版社が光村図書と学校図書で、6年生にありました。これはとても評価できるかなと思いました。あと、この分野についてはどの出版社も行き届いて編集されているなど感じられました。

和田委員長…次の観点に移ります。学年別漢字配当表に配当されている漢字は、新出語句の提示という観点ではいかがでしょうか。

山田委員…その観点では、学校図書のところで、漢字の部屋、言葉のきまり、言葉の意味というコーナーがあり、そこでとても解かりやすく漢字や新出語句の提示をしてくださっていると感じました。それから、三省堂は、やはり辞書を作っているところなので、国語辞典や漢字辞典の使い方を通して、またそこから広がっていく世界を考えてくださっています。今、パソコン等色々なツールは大切ですがけれども、ちょっと辞書離れの傾向がありますから、辞書を使うことによって、また子どもたちが色々な世界を広げられるのではないかなと思いました。

和田委員長…他にいかがでしょうか。この観点についても、どこの出版社も行き届いていたという印象でした。ちょっと変わったところでは、教育出版で、漢字の広場で、特別な読み方の言葉、ツイタチとか、ハツカ、タナバタなどが紹介されていたので、これは、日常会話の中では普段生活では使っているわけですから、字に当てはめるとこうなるんだとか、良い考えだなと思います。学校図書で、先の山田委員と重複するのですが、漢字の部屋というところで、非常に丁寧に扱っているなという印象を受けました。よろしいですか。では、その他の観点では何かありますでしょうか。

栢沼教育長…学校図書ですが、1年の上について、目次の数字が解からなくても、動物のマークを指で押さえて、ページが開けるようになっていたり、あるいはインデックス方式のページ構成になっている。また、就学前にたくさんの絵本に触れる

ことによって身につけてきた技能、これを就学直後の学びの意欲を自然に結びつけるような、楽しく解かりやすい仕掛けがされている。また、巻末には保護者向けのページというものが設けられていて、その中で学習内容や身につけた力というものが、領域別に一覧で提示されている、そういったところが特徴的であったと思います。

和田委員長…他にいかがでしょうか。私が思ったのは、学校図書で、点字が教科書に載っていたというのが、バリアフリーやユニバーサルデザインとか言われているこの社会の中では、配慮されているのが良かったと感じました。

山田委員…先程、栢沼委員がおっしゃった学校図書ですが、保護者のページが最後にありまして、そこに教科書のまとめが書いてあります。中学年、高学年になったら、そのページを子どもたちが読むと結構指針になるかなと思ったりしました。それから、学校図書の6年生の教科書で、「昨日より1回だけ多く」という詩があって、阪神大震災で被災した君へという副題がついているのですが、とても素晴らしい詩だったので、子どもたちの心に響く良い詩を取り上げているなと思いました。

和田委員長…他にいかがでしょうか。全体として感じられることがあれば。今回、全体を見させていただいて私が感じたのは、国語は単なる文字だけではないということ、そういうところに各社が力を入れているなと感じました。言葉の持つ意味や力、それからもっと具体的に声の大きさ、読む速さ、間の取り方に至るまで、音読していくというところの指導がとても良く作られているなと感じました。これは全体に言えることでした。以上で、観点の3つとその他というところでご意見を頂きました。ここで、今回、何社かに絞ることをしたいのですが、みなさんからのご意見を伺っていると、学校図書は、色々ところで良い意味のご意見を頂けたのかなと思います。あと、辞書を作っている三省堂というご意見もありました。それから、東京書籍も複数の委員からご意見あったと思います。学校図書、三省堂、東京書籍というくらいで絞るといえるのはいかがでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

②種目 書写

和田委員長…では、書写に入ります。国語と同様にいくつか観点を教育長からあげて頂きたいと思います。

栢沼教育長…それでは、書写の教科書採択における内容選択の観点としては、「1 児童の発

達段階に即した内容の適切さ」「2 毛筆と硬筆の教材例の提示及び関連の適切さ」「3 日常生活との関連を図った教材例の適切さ」などが挙げられます。

和田委員長…それでは、児童の発達段階に即した内容の適切さという観点では、どうでしょうか。

栢沼教育長…光村図書についてですが、特に指のなぞり書きを用いると、運筆運動の練習が、学年に応じて工夫されている。また、5年生では、自分の文字を見つめ、整えるためのポイント、これらを自ら確かめる、そういう機会を設けるといった、まさに発達段階に応じた内容が組み込まれている点が大変評価できるかと思っています。また、東京書籍については、この発達段階ということでは、点画、字形、筆遣い、書写の基礎、基本を反復しながら学べるよう工夫されている点が評価できます。

和田委員長…他にいかがでしょうか。それでは、私の方から。光村図書のところで、指書きが徹底されていて、全体としてバランスが読み取れた学習内容になっているという印象を受けました。毛筆の片付けというところまでも注意が良く行き届いて指導されているし、高学年になると字形を整えるときか、素早く書き留めるときか、というようないわば応用的な、多岐に渡った学習内容になっていたと感じました。それから、東京書籍では、書く姿勢というところで、トンとかピタとか擬音化がうまく使われていて、解かりやすくできていたと思います。出来たときには、シールを貼るなどして、楽しく学ぶ工夫もされていました。当然、高学年になるにしたがって、鉛筆だけではなく、毛筆に進むという発達段階に即していると、これは各社とも言えることではありますが、そのような印象を受けました。他にいかがでしょうか。この観点、発達に即してというところでは、では、次の観点到り移りましょう。次は、毛筆と硬筆の教材例の提示および凡例の適切さというところではいかがでしょうか。

栢沼教育長…どの教科書も毛筆あるいは硬筆を関連させた教材例が適切であると思っています。光村図書においては、1、2年生の教科書内にも毛筆の書体が示されています。硬筆から毛筆につながる提示の工夫がみられるところが評価できると思います。また、三省堂では、3年生以上で硬筆で学習の導入を図って、文字の課題を共有した後、毛筆の原理原則を確認するという構成となっている点を評価します。

和田委員長…他にいかがでしょうか。それでは、私から。三省堂では、穂先の向きが10時半という表記があり、これは非常に具体的で解かりやすく、とても良い表現だったと思います。線を引くときは、腕全体で動かしてというように解かりやすく、また、必ずかなに鉛筆で書こうというように載っています。毛筆と硬筆の

関連という点で良かったと思いました。日常生活との関連を図った教材例の適切さというところでは、いかがですか。

山田委員…東京書籍ですけれども、5年生では委員活動の内容を伝えるパンフレット作り、6年生では送る会に向けての寄せ書き等、実際、子どもたちの学校生活での活用例を示しているのがとても評価できると思います。

和田委員長…他にいかがですか。そうですね、この観点については私も東京書籍の図書委員の仕事というところで、本をたくさん読もう、そういうことだとか、それから、小筆の活用の例で連絡帳、さらにフェルトペンで手紙やメモを書いてみようというようなことが提示されていて、これは日常の生活につながることだなという印象を受けました。他にどうでしょうか。では、最後にその他のところで全体としての観点は、いかがでしょうか。

栢沼教育長…東京書籍は、大判になったことから、見開き2ページで1テーマを扱うという点で、児童に見やすい配慮がされているように感じます。光村図書においては、先程和田委員長がおっしゃったような穂先の向き、あるいは筆圧とか、点画のつながり等、筆遣いが解かる写真が多く掲載されています。そういった面では、児童の理解につながる表記、あるいは表現の部分がなされている点で、大変評価できると思っています。

山田委員…光村図書の教科書ですが、全体を見てみると、すっきりとして解かりやすいという印象を持ちました。

和田委員長…私もほぼ委員の方たちと同じように、各学年の巻末の資料として、手紙の書き方、縦書き、横書き、それから、封筒の書き方、はがきの書き方、絵葉書まで、原稿用紙の使い方、新聞を作るときの書き方の工夫等まとめて例示されている、これらは、前の観点の生活につながるというところと関連して良かったのではないかと思います。一応、最初に挙げた観点についても、これで皆さんご意見としてはよろしいでしょうか。それでは、ここから候補を挙げて頂きたいのですが、この段階で絞るというところではいかがでしょうか。

栢沼教育長…光村図書と東京書籍あたりが評価が高いと思います。

和田委員長…栢沼委員からご発言がありました、いかがでしょうね。この段階で2社でよろしいですか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…それでは、書写では、光村図書、東京書籍の評価が高いようですので、この2社から採択していく方向で、進めていきたいと思っています。

(異議なし・全員賛成)

③種目 社会

和田委員長…次に社会科の協議をしていきます。社会科の協議の観点をいくつかあげていただきたいと思います。

栢沼教育長…社会科の教科書採択における内容選択の観点としては、「1 社会的状況を反映した題材を取り上げ、児童が興味をもって学習できるよう配慮されているか。」
「2 地図、統計、各種の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、児童の発達の段階に即しているか。」
「3 作業的、体験的な学習や、問題解決的な学習は適切に取り上げられているか。」などが挙げられます。

和田委員長…「内容」「構成・分量」「表記・表現」とともに、どの教科書も工夫がなされています。言語活動の充実は日本の伝統や文化を尊重し、郷土を愛する態度を養うことができるようになっていきます。特に学習指導要領における改善事項の言語活動、伝統や文化に関する教育、体験学習等の充実が図られているようです。また、どの教科書も学習のしかたが示されており、児童の何をどのように学んだらよいかのわかるよう工夫されています。まず、「内容」についてはどうでしょうか。

山口委員…内容とか構成表記とか、その違いがあまりよくわからないので、自分なりにみて感じたことを話します。もしかして、ごっちゃになってしまうかもしれません。最初に、最近の教科書は、勉強の仕方が出ているという風に先程おっしゃっていましたが、教育出版は、教科書の使い方というのが最初の方に出ています。その中に学習問題というものと、今日何を学習するのかというものが各单元ごとに出っていますが、その違いが、どういう違いなのか、どちらも目的になってしまうのですが、その違いがよく解からなかったなというのがありました。だから、逆にその違いがよく解からないがために、その日に何をしたらいいのだろうかとか、ボケてしまったのかなという感じが正直ありました。東京書籍は、同じように学習の進め方という中に、つかむという疑問に思ったことを挙げて、調べる、まとめるというのがあるのですが、調べるという内容のところに疑問点がたくさん羅列されているのです。つかむといった疑問点を挙げたのと、その調べるというところの違いは何なのだろうか、そこが東京書籍もはっきりと目的が解かりにくかったです。光村図書は、ようこそ社会科へというのがあって、ホップ、ステップ、ジャンプと、何か疑問を見つけて、そ

れを調べて話し合っ、最後まとめて広げていきたいと思いますというその3つであり、単純な分、逆に解かりやすかったという印象を受けました。それから、日本文教出版は、問いの旅という疑問を持って、問題をつかんで、予想を立てて調べるとい、これも同じようになっているのですが、文字の部分は解かりやすかったのですが、図、色分けされた図があったのですが、その図の意味が解かりにくかったです。色分けの部分がちょっと解からなかったです。一番シンプルな光村図書が目的とか解かりやすく良かったです。

山田委員…内容ですが、光村図書と教育出版が、小田原の子どもたちに関連のある記事を載せていて、光村図書は、3、4年生のいいところいっぱい私たちの県というところで、箱根町が6ページにも渡って紹介されています。箱根細工の2人に職人さんの工程を写真入りで、また、職人さんのお話も紹介してありますから、子どもたちもとても関心を持って、学習できると思いました。教育出版も、昔から今へ続くまちづくりというところで、荻窪用水を見開き2ページで取り上げていまして、子どもたちが実際に住んでいる町が写真で大きく載っているということは、興味関心を高めるといことで、とても良いと思いました。それから、光村図書は、ホップ、ステップ、ジャンプと先程山口委員がおっしゃった学習の段階が示してあって、とても取り組みやすい構成になっていると感じました。それから、日本文教は、安全な暮らしを守るといところで、とてもよく取り上げていて、火事、自然災害、交通事故、また、東日本大震災を取り上げて、安全なまちづくり、身の守り方、地域の人たちとの協力等が大変解かりやすく書いてありました。教育出版も、内容が伝統文化のことですが、日本の茶道や生け花等、室町時代の文化が今現代でも行われているとい写真を載せているといことで、その文化が今も引き継がれているといことが解かるところが良かったです。東京書籍ですが、東日本大震災、直近のことですから、子どもたちにもとても関心のあることですが、それもよく取り上げて示してあります。それから、教育出版も光村図書も同じような取り上げ方をしていますが、東京書籍は、数多くあったのが、今現在携わっている人々の具体的なお写真とかお話を多く取り上げていますので、例えば、工業だったら倉敷市の製鉄所の中島さんの話とか具体的に、世界の中の日本ですと、サウジアラビアのムーサさんの話とか、具体的に子どもたちがお話を聞くような感じで取り上げられているのが、良かったです。教育出版も光村図書もそれはありますが、東京書籍が数多かったような気がします。

和田委員長…他にいかがでしょうか。では、私から。今、山田委員もおっしゃってましたが、直近の東日本大震災の内容を強く取り上げていたのが、東京書籍と日本文教出

版だったと思います。その中で、作業的な学習、問題解決によるということでは、東京書籍の方では、調べたことを地図にまとめる、まちの安全マップを作るというように話が進められている。これらは3、4年生のところだが、さらに5年生の上になると、学習問題を作って調べるというところで、インターネットや図書館で調べて、まとめてノートの整理する、さらにそれを生かすというところまで進めて、展開しているというのが良かったと思いました。日本文教出版は、先程申し上げたように、東日本大震災のことを取り上げている中で、大きくジャンプというところで、地域を越えた助け合いというのがテーマになって取り上げられていました。特にその中で、アメリカ軍のトモダチ作戦ということや国境なき医師団というようなことが取り上げられていて、これは3、4年生のところですが、5年生のところでは、自然災害から身を守るためにというキーワードで、自助、共助、公助という言葉をきちんと取り上げていました。これは、今の社会状況に非常に即したことだなと思いました。さらに、先程の山田委員のお話にもありました、やはり地元のことが取り上げられているのが大きいと思いました。それは、教育出版と光村図書で、共に箱根細工が取り上げられています。さらに、地図で距離を調べるというところでは、箱根駅伝のコースまで取り上げられていて、ここに暮らす子どもたちにとっては、非常になじみのあることがらです。さらに駅伝のトロフィーを作っている人も取り上げられています。毎年、テレビに出ていますから、話題性もあります。光村図書のは、地元の子どもたちにとっては、興味を持てる内容だったなと感じました。次の観点で、構成、表記についてというのはどうでしょうか。もし、ありましたらどうぞ。

山田委員…教育出版の目次で、教育出版だけでしたが、大きな単元のところで、例えば、4という際に、4がグリーンに色がついていて、その単元の4のところのページは全てグリーンでページが書かれています。例えば、5年生で暮らしを支える情報4と書いてあり、4は、ここではブルーで書かれています。この関連のページ、2ページから27ページは、全部ブルーで書かれています。子どもたちは、ページが引きやすく、解かりやすい構成になっており、工夫されているなと感じました。

和田委員長…他にいかがでしょうか。私が思ったのは、光村図書のもので、神奈川県を中心とした衛星写真を使って、県の特徴等が非常に見やすくなっている感じがしました。ホップ、ステップ、ジャンプの構成で、とても解かりやすい、児童が興味を持って主体的に学習ができるような配慮を感じました。他にいかがでしょうか。もし、ないようでしたら、本日欠席の萩原委員から事務局の方に届けら

れていると思いますが、ちょっと紹介してください。

指導・相談担当課長…欠席されている萩原委員から事前にご意見をいただいておりますので、ご報告させていただきます。日本文教出版の教科書についてのご意見がありました。沖縄の基地の成り立ちについての説明がしっかり書かれています。人権に関する記述も丁寧に書かれています。食の問題について、食料自給率を身近な例を出して課題を提案したり、身近なことを題材に、地域の課題から町、市、県、国へと理解しやすく捉えると思いますので、解かりやすいです。また、戦争と子どもや女性たち、女性の記述があるのは、この教科書だけで、良いという評価ができます、とのご意見でした。

和田委員長…だいたいご意見は出尽くしましたか。それでは、欠席した萩原委員のご意見も出ましたし、ここで、今回絞り込みを行いたいと思いますがいかがでしょうか。私としては、小田原が紹介されているものの方がいいなと思います。2社か3社に絞りましょう。

山田委員…2社でしたら、教育出版と光村図書がいいかなと思っています。光村図書は6年生の教科書の巻頭に小和田哲男さんの歴史を学ぶ人へのメッセージがあり、「生きる意味をつかむために歴史を学ぶ」という子どもたちへのメッセージが書いてあります。他の教科書も素晴らしいのですが、この2社とっております。

和田委員長…山田委員から2社のご意見を頂きました。この段階で、教育出版と光村図書ということで行きたいと思います。

(異議なし・全員賛成)

④種目 地図

和田委員長…では、次に地図になりますが、これは教科書と関連があるところですが、地図は2社だけです。東京書籍と帝国書院です。見られていかがですか。

栢沼教育長…どちらの地図も学習指導要領に沿って内容が提示されておりますし、言語活動、あるいは伝統文化、こういった教育、体験活動等の充実が図られている、そういった点では、甲乙つけがたい感じがします。

山口委員…確かに甲乙つけがたくて、4年前に比べて、2社の差が縮まってきたなと感じました。見慣れているせいもあるかもしれませんが、東京書籍はA4サイズになったので、資料とか見やすいですし、データもたくさん載っているのですが、帝国書院は長くやってらっしゃる分なのか、そつがないというか、地図の中に世界一のものがたくさん載っているのです。世界一のものを見ていくのもすご

く興味を引きました。東京書籍の方は、世界一のものが出ているのは、エベレストだけでした。その辺は、もう少し世界一のものがたくさんあるにもかかわらず、載っていなかったなということもありました。あとは、色々な歴史の舞台というものがあり、帝国書院は、年表まで出ていました。東京書籍は、歴史の舞台が以前のものよりも減ってしまったような印象を受けました。その代り、索引を見ると、世界のページの索引は、東京書籍は、結構たくさん出ているのですが、帝国書院の索引は、世界の索引の方は、大変貧弱のような印象を受けました。モンブランという山を見ようとした際、世界第何位と写真に出ていましたので、索引で引こうと思ったら、モンブランは索引には出ていなかったです。折角、山の写真が出ているのに、索引でどこにあるのだろうと見たい子どもがいても、引っかけられないのは、ちょっと作りが雑だなという印象を受けました。甲乙つけがたいというのが正直な印象です。

山田委員…私も甲乙つけがたいと思います。東京書籍は、巻頭に日本全体の地図を大きく載せ、最後に世界地図を大きく載せて、子どもたちがグローバルに興味を持てるなと思いました。写真の色等鮮明できれいですし、資料がすごく増えて、さまざまな学習の場で活用できるように工夫されていて、イラストやグラフ等も色をたくさん取り入れているなと思いました。帝国書院は、やはり色に馴染みがあって、濃淡が程よく、高低とか、広がり目が優しく、解かりやすいです。見慣れているからというのものもあるかもしれませんが。それから、大きさですが、小さい子どもからは、帝国書院の方が見やすいのかなと思ったりもしました。そして、特徴としたら、帝国書院の地震、火山の災害と防災というものがあって、日本のプレートと世界の地震の分布があり、防災マップも載っていました。防災マップ作りというのも取り上げていまして、小田原は、地震の危険がありますので、それに載っていた地図がまさに小田原の地形と似ていて、子どもたちがその地図を見ながら、どうやって避難するとか、安全を考えるという防災マップ作りというのがとても印象に残っています。

和田委員長…萩原委員の意見が寄せられていると思います。

指導・相談担当課長…萩原委員よりご意見が寄せられております。東京書籍がA4版であり、この方が見やすいと思います。調べ学習もはかどりそうです。

和田委員長…各委員からご意見頂きましたが、今回の段階では2社か3社に絞り込みということで、今頂いたご意見を参考にして、東京書籍、帝国書院の2社にしたいと思います。そういうことでいかがでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

⑤種目 算数

和田委員長…では、次に算数の教科書についての検討に移ります。算数につきましては、6社の教科書があります。ではいくつか協議の観点について提示をお願いします。栢沼教育長…算数では、教科書選定にあたっての視点として、「1 学習指導要領における改善事項（言語活動や体験活動の充実等）は図られているか。」「2 既習内容を定着させるためくりかえし学習させる内容は充実しているか。」「3 算数的活動として、作業的・体験的な活動や具体物を用いた活動などが適切に配置されているか。」「4 言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いて表現したり、説明したりする活動は適切に取り上げられているか。」などが考えられます。

和田委員長…それでは、まず、学習指導要領の改善事項が図られているかどうか、ご意見ををお願いします。まず、私から発言します。算数、数学で、つまずいている子どものほとんどは、特殊に使われている言葉が原因なのです。普段日常的に使われていない言葉で、高学年、中学では、因数分解とかです。普段子どもと関わりを持っていると、普段生活で使われていない言葉につまずいて、算数が先に進まない、言葉がちゃんと理解できていれば学習が進むということをすごく感じています。特に、4年生になると急に算数的用語の数が増えるのです。4年生になると算数につまづく子が多くなることにつながっているような気がします。そういう視点で教科書を見させていただきました。学校図書の言葉というところで、算数用語の解説をしていて、新しい言葉を赤の点線で囲んで、目を引くような工夫が丁寧に行われていました。これはいいなと思いました。それから、算数でつまづく原因として、日常指導していて感じるのは、ノートの作り方です。啓林館の2年上で、わくわく算数ノートというものがある、ノートの作り方を具体的に示しています。このノート作りが算数では命だと思いますし、これを解かりやすく説明しようというところでも、体験活動として良いものを併記しているなど感じました。それから、教育出版でも、言葉や記号、約束等を囲みや色別にして学習できるようになっています。あと、ノートの書き方を丁寧に、繰り返しやっているのです。この辺りも良かったと思いました。

山口委員…観点から全然外れてしまうかもしれませんが、どちらが良いかわかりません。随分違ったなと思ったのが、上下で分冊になっている会社、東京書籍は、6年生だけが1冊で、あとの学年は全部5年前から上下となっていて、11冊です。これに対し、大日本図書は各学年1冊にまとめてあり、6冊です。あとは、学年によって、2冊だったり、1冊だったりする教科書会社がありました。教え

る側にとって、どれが教えやすいか、使いやすいか。私は、教える立場ではないので、よく解からないのですが、戻ったりするのであれば、上下が分かれないほうが便利な点があると思うし、持ち運びを考えれば薄くなっていたほうが楽かもしれない。その辺が使いやすさがどうとらえられるか違いがあるかもしれない。最近の教科書を見ると、索引が後ろに出るようになって、文言とか用語とかを引くことができるようになっていて、索引を持っているのが、東京書籍、大日本図書、教育出版、学校図書、この4社が後ろに索引が載っています。中学に進むにあたってつまずきやすいであろう項目、単元が色々あって、もちろん四則演算の基本もそうですが、6年生くらいになったら体積、公約数、公倍数があったり、小数、分数等どんどん難しくなってくるのですが、それらをいかに解かりやすく繰り返しやっているかと各社を比べて、理系なので、全部点数化させていただきました。その点数をすべて合計して、スコアで出しました。どこがどうだとあまり具体的に細かいことは言えないのですが、点数でいうと、東京書籍が1番点数が高く、2番目は大日本図書、3番目に教育出版でした。解かりやすさ等という点でつけた点数です。

和田委員長…山口委員から、全体から細部に亘ってお話いただきました。他の委員かさらに何かあればどうぞ。なければ、次の観点に移りましょうか。繰り返し学習させるというところでは。

山田委員…繰り返しというか、算数は、他の教科よりも個人的差がすごく多い教科です。現場の先生たちから内容に入る前に、レディネス問題があるとよいと伺っていますので、東京書籍がレディネス問題に力を入れているかなと思いました。前のことを復習する必要がありますから、いいのかなと感じています。

和田委員長…他にいかがでしょうか。繰り返しというところでは。

栢沼教育長…啓林館ですが、算数アスレティックという、前の単元のおさらい、次の単元に生かすことができる復習というのがセットになっています。こういう点で、一単位時間で扱える内容にしているということで、無理のない形かなと思います。

和田委員長…私が感じたのは、とにかく繰り返しというところは各社工夫されているなと思いました。しいていうならば、教育出版の中のレベルアップ問題というところで、基本問題からレベルアップ問題という仕訳があって、算数の場合、個人の力がバラバラなものですから、レベルアップ問題というものを配慮されているのかなと感じました。繰り返しというものは、各社共通していますね。良く出来ているなと思いました。3つ目の観点として、算数的活動として作業的、体験的活動、具体物を用いた活動等が適切に配置されているかどうかというところでは、いかがでしょうか。

栢沼教育長…具体物を用いた活動という点から、あるいは体験的な活動という視点から考えると、学校図書、特に低学年で体験的な学習を配置している。また、具体物を用いた活動が大変多いということで、算数入門期には大切であるかなと思います。

山田委員…体験的な活動として、学校図書は、人口問題や震災問題とか、ごみのリサイクルを題材にしたもの、環境問題等にも触れて、関連させているというところが評価できると思いました。

和田委員長…私が思ったのは、啓林館で、学びを生かそうというのがあって、これは2年上です。数当てやかさ比べ、これをやってみようというところで、特設ページがあるので、良いなと思いました。それと、学校図書で、低学年で単元の最初に学ぶものを写真で示して、具体的な作業や体験につなげるという工夫がきちんと出来ていると感じました。では、次の観点に移りましょう。その他というのが後でありますから。では、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて表現したり、解説したりする活動が適切に取り上げられているのでしょうかというところで、どうでしょう。では、私から発言します。私が感じたところをまとめます。学校図書のところで、巻頭の算数探検隊で、算数的事象、札幌の町名とか、教材としては大凧などをカナで示していて、そういうものに少し算数的な要素が、何丁目とか、大太鼓のサイズとか、そのようなことが示されていて、算数がこういうところで生かされているのだなと、具体的に示していると感じました。大日本図書で、単元初めに学習の見通しが見えるような工夫がされていて、例えば、航空写真の地図から道路の本数を調べさせたり、それから、郡上八幡だったと思いますが、徹夜踊りの参加者数で、およそ概数の概念を示していて、具体例が良いなと感じました。あと、全体のというところに行きましょうか。全体では、いかがですか。私が、一つだけ非常に気になったことがありました。東京書籍のところで出ていたのですが、2桁の引き算で、複雑な思考回路を例示しているというものがあって、二人の子どもの事例が載っていました。算数指導の場合は、一度インプットされた回路がそのまま繰り返されるということを子どもたちと接していて、常に思うのです。だから、ちょっと違う観点というか、もっと大きな年齢になってからだとそういうものの考え方があっていいということが処理できるのだと思うのですが、ここで、発達段階からいって、小さい年齢のときに、こういう例もあるよという複雑な回路を提示しているので、これはいかがなものかなと思いました。小さいときは、出来るだけシンプルな回路を作っておいてあげたほうがいい、算数はシンプルに出来ていて、約束事の積み重ねですから。私の経験からいうと発達段階で違う

回路の提示は、10歳以上、5年生以上からだと思いました。それから、啓林館では、計算から応用問題に移るとき、抽象観念の導入というのが非常にうまくやっているなど感じました。全体的として系統的な学習の組立がシンプルで、すっきりしていて、算数学習としてはよいのかなと感じました。みなさんから何かあったら、全体としていかがでしょう。

栢沼教育長…教育出版については、学習課題の中に、学んだことを使おうという、こういう問題を配して、日常生活と算数との関わりを意識した活動を取り入れている。また、啓林館では、学習課題だけではなく、学びを生かそう、読み取る算数、この特設ページで他教科の学習をつなげているといった点で、社会科、あるいは生活科の学習等と関連させている、こういった点が評価できるのかなと思います。

和田委員長…他にいかがですか。では、採択のために2社か3社に絞り込みというところで、いかがでしょう。栢沼委員はいかがですか。

栢沼教育長…系統性とか、段階を踏んで、子どもが説明するときに、色々な点で、図とかグラフ等、型を身に着けるという点では、段階を追って指導していくことが大切ということからすると、啓林館のものも構成が良く出来ていると思います。

山口委員…自分が問題を解きながらやって、観点で選んだというよりも解かりやすいものをと考えてすいません。

山田委員…山口委員がトータルして1位にした東京書籍を入れて、3社ぐらいに絞込むとすると、あと、学校図書あたりはどうでしょう。

和田委員長…はい。今、委員の方々から出たのは、啓林館、東京書籍、学校図書の3社です。よろしいですか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…算数は、啓林館、東京書籍、学校図書ということで、この段階での候補とします。

⑥種目 理科

和田委員長…では、次に理科の教科書に移ります。理科の教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館の5つの教科書です。協議の観点をいくつか提示をお願いします。

栢沼教育長…理科の教科書採択における内容選択の観点として、「1 観察、実験、ものづく

り、栽培、飼育の5つの活動は問題解決の能力の育成に適した内容になっているか。」「2 見通しを持って観察、実験などを行ったり、それらの結果を整理し、考察し、表現したりするために、図や表、挿絵等は適切に配列されているか。」「3 環境教育に関する図表や写真などの資料は児童の発達の段階に即しているか。」などが挙げられます。

和田委員長…「観察、実験、ものづくり、栽培、飼育の5つの活動が問題解決の能力の育成に適した内容になっているか」ですが、各社とも、子どもの発達や、ものの見方や考え方の特性に沿った内容を取り上げております。子どもが、自ら条件を制御して実験・観察を行い、規則性を見つけ出したり、一定の視点を意識しながら、問題解決に取り組めるよう様々な工夫がなされています。みなさんからのご意見を伺いたいと思います。

栢沼教育長…大日本図書についてですが、観察、実験の方法が大変解かりやすい、そういう記載がされています。また、子ども自身の力で、問題解決に迫ることができるよう、見通しが持ちやすい工夫がされている点を感じます。啓林館につきましては、身近な遊びの中から出てきた疑問から課題を設定して、それを検証していくという、そういう構成となっています。まさに、問題解決的な学習を進めるうえで、実感を伴った理解につながりやすいといえます。そんなところを感じます。

和田委員長…理系の山口委員はどうでしょうか。

山口委員…問題解決能力、育成に適した内容というのは、具体的にどういうことをいえばよいのか、全く理解できないのですが。この観点が。すいません。私、理系ですが、理科は、問題、疑問があって、それを解決するためにどうしたらよいか考え、それを実行に移して、答えが出る。答えが出て、それで終わりではなくて、また、新たな疑問が出てきて、さらに次へと進歩していくものだと思います。一番最初の目次の次くらいに、学び方、理科をどのように勉強していきましょうかというページが各社出ているのですが、それで見るときには、大日本図書がまとめた後で、また新しい問題を見つけるような矢印がスタートに戻っていくようになっています。常に、これで新しい疑問を考えましようと考えているのは、良いことだと思いました。実際、中の色々実験とかやっているのを見ると、これで解決できていなくて、次にこういうことをやったらどうだろうとか、発展で出てきているのです。それは、ここで子どもたちに次の疑問を出させていくためには、そういうのがないとだめだし、これで、今日の授業は終わりだけれど、この問題は解決ではないのだよと思わせなければいけないと思うので、そういう意味では、ずっと理科の考え方で統一されて、教科書作り

をしているなど感じました。私は、大日本図書がいいと思いました。

和田委員長…山口委員からの発言がありましたけれど、私は、全く同じ視点で、啓林館も良いと思いました。単元の初めに見える形で問題提起につながる写真を提示し、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習の進め方に沿って、その観察や実験を行っていく。まとめのところで、振り返ろう、広げようがあり、さらにその過程で、新しい不思議や驚きを見つけたら、次はそれを調べていこうという、それは、まさに山口委員が大日本図書の方でおっしゃったことに、私は啓林館の方でそれを感じました。問題解決だけではなく、さらに追求していく、科学の探求の姿勢というのが、そこには強く表れていると感じました。問題解決能力の育成というところは、よろしいでしょうか。次の観点に行きましょう。見通しを持って、観察、実験等を行い、それらの結果を整理し、考察し、表現するための図や表、挿絵などの配列についていかがでしょう。

山口委員…自由研究というところを考えてみたのですけれども、どこの会社も中程に自由研究が出ています。具体的にいうと、教育出版は、3年から6年すべてにあるのですが、内容とか発表の仕方とか、学年による違いがほとんどないのです。3年から6年まで同じような作りとなっています。東京書籍は、項目と説明は同じですが、レポートの中身が学年によって少しずつ変化している。大日本図書は、内容が学年によって変化していて、大日本図書で大事だな、いいなと思ったのは、どんな実験、研究も計画があまりにずさんだったら、実験としてなりたない、計画がいかに大切かということがあるのですが、実験計画の立て方がものすごく詳しく出てました。啓林館は、テーマが色々あるのですが、その例がとても詳しく良く出来ていました。その後、自由研究について次のページに、科学の目で見てみようというページが出ていますが、それが、例えば、ばらつきがあるものを調べるには、どうしたらよいのだろうかとか、みんなに正しく伝えるためには、大きい、小さいではなくて、数字みたいに客観的なもので伝えなければだめだよという、理科の心構えを3年生から教えているので、とても良く出来ていると思います。学校図書は、考えよう、調べようという研究のところがあるのですが、先程挙げた2社ほどの充実さでは正直なかつたです。また、実験に関してですが、どんな実験、研究でも安全、特に児童、生徒たちが安全第一ですが、液体薬物を使用するときは、必ず保護めがねを着用しましょうと文字で指示していたのは、大日本図書でした。イラストで保護めがねの絵が書いてあるのが、啓林館と学校図書でした。それから、先日新聞に、夏場、海の事故より川の事故の方が死亡者が多いと出ていたのです。学校の授業で、川の流れというものがあつたのですが、新聞記事を思い出して、川

での事故が非常に多いというのを見ると、危ないなと思いました。先生の言うことをちゃんと聞いてとは教科書に書いてあるのですが、新聞にはライフジャケットを着なさいと書いてありました。大日本図書がライフジャケットを着て、実験をさせていました。これは、今の時代に沿ったものなのかなと感じました。

和田委員長…理科については、私と山口委員と意見が合いますけれども、全く同じ感じがありました。大日本図書が、うまく出来ていると感じました。単元の初めに、これから学習することをイメージ出来るような挿絵を示して、そのページに必ず、「～だろうか」という問題提起をしている。これは、見通しを持って、これから実験、観察をしていく、まとめていくというところでは、これを毎回やっています。これはすごくインパクトがあるなと思いました。後は、個人的な感じですが、星座のところで、セルロイドのカバーが載っていて、見やすくなっていました。教科書全部にペタッと貼りついているのではなく、カバーがはずせて、具体的に見えるように工夫がされていたのが、買いたいという感じがしました。それから、啓林館の方で、巻末に必ず読んでみようという本が各学年全部に提示されていました。これは、発展的で、興味のある人にとっては良かったなと思います。そして、わくわく理科プラスというものが別冊に付いています。そこでは、学習したことをきちんと書き込めるようになっている欄があります。理科離れが指摘される昨今で、このようなものは良いと思います。特に小学生では、女の子たちがよく頑張っているから、リケジョみたいに、そういう子たちには刺激的、発展的かなと思います。小保方さんは、あんな形にはなりませんが、話題になった訳で、理科に女の子が興味を持つということでも、わくわく理科プラスという本の作りは、良いなという感じを持ちました。その点では、今回、理科では、山口委員と考え方が合うなと感じました。

山田委員…出産、人のいのちの誕生という単元のところで、大日本図書では、胎児の大きさを母親の大きさと比較して、とても理解できるように工夫されていました。東京書籍は、人の命の誕生を学習するだけでなく、産婦人科医さんの言葉を載せて、かけがえのない命の誕生を子どもたちに呼びかけていて、もう一歩進んだ問いかけが出来ているのではないかと思いました。それから、啓林館は、今話題のiPS細胞とか、若田さんとか、子どもたちが興味のあるものを取り上げていましたので、理解や色々な興味を持たせてくれるのではないかと思いました。

和田委員長…それでは、最後に環境教育についてという観点から見るといかがでしょうか。自然を大切にしましょうというマークをつけて、それぞれ編集されているようですが。先に私から発言しますと、環境教育は、これからの分野なのだろうと

全体を見ながら感じました。また、どこの項目でも環境教育につなげられる要素を持ちながら、そこまで言及していないというような感じがしました。ただ、その中で、啓林館は、6年生で私たちの暮らしと環境という項目で、私たちに出来ること、水を守る、空気を守る、食べ物について知るという、非常に具体的に示しています。さらに、理科の広場で、未来へ続く暮らしのためにということを書いて、持続可能な社会を作る、水や空気の汚れ、エネルギー資源不足の心配等、様々な問題が起こっていることを単刀直入に指摘している。環境教育に関しては、啓林館がダントツだと思いました。大日本図書でも、理科の玉手箱というところで、環境教育の意識をはっきりする、例えば、乾電池、充電電池、光電池等歴史が解かりやすく示されていたりしていますが、啓林館の方が徹底して、一歩先を行っているなという印象を受けました。全体の観点について、もし他に何かございましたら、付け加えていただいて、なければ、ここで絞り込みをすることでいかがでしょうか。

栢沼教育長…全体的に見て、さらに環境の視点から、啓林館、大日本図書が資料の扱い、子どもが環境問題に関心を持っていく、そういったところからすると、一歩前に出ているのかなという感じがします。

和田委員長…一つ付け加えると、大日本図書の中で、マイ図鑑作りというのがあり、この提案はいいなと思いました。色々なものをカードにして、付け加えていく、学習したものを入れ込んでいくものです。いかがでしょうか。啓林館と大日本図書という教育長から発言がありましたが、この2社という絞り込みでよろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…それでは、候補として、理科は大日本図書と啓林館ということにしたいと思います。今日は、これで以上ですが、次は、7月31日の臨時会で、引き続き残りの種目の協議を行いたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。みなさんに大変な量を読んでいただき、それぞれまだ言い切れない部分もあると思いますが、また次の機会のお話いただければありがたいと思います。では、本日絞り込んだ結果の確認をします。国語は、学校図書、三省堂、東京書籍。書写は光村図書、東京書籍。社会は光村図書、教育出版。地図は東京書籍、帝国書院。算数は、学校図書、啓林館、東京書籍。理科は啓林館、大日本図書。以上になります。

(異議なし・全員賛成)

(4) 委員長閉会宣言

平成26年8月28日

委員長

署名委員 (山田委員)

署名委員 (栢沼委員)